

ベルトコンベア式シール機

FILM SEALING MACHINE

ES シリーズ

エンドレスシーラー

ES-160、ES-161

薄手の袋から厚手の袋まで、しっかり密封。
小型ながらしっかり働きます。

小規模工場、店舗に。

卓上型

ES-160

【標準タイプ】

定価 130,000 円

ES-161

【フラットタイプ】

定価 135,000 円



- 2017 年 4 月販売開始の新モデル
- 従来機より、より壊れにくくなりました。



改良例：防塵、防滴のスイッチを採用



特 徴

- 小型で場所を取らないので、店舗や小規模工場にも設置しやすいです。
- さまざま袋に対応すべく、シール温度、ベルトコンベアのスPEED、シール圧などの調整が細かく可能。
- ステンレスポディーなので、食品関係の会社にも最適です。



操作部



シール形状

網目模様、10 ミリ幅でしっかり密封します。



(オプションで横目模様
もあります。)

ES-160【標準タイプ】



段差 3 cm

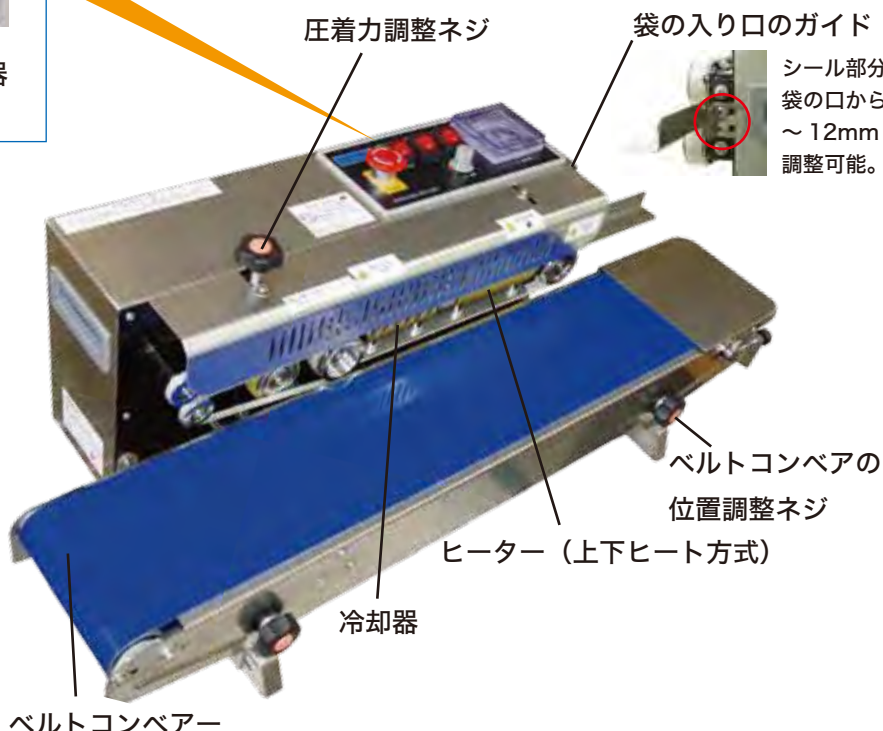
シールする部分の高さと、ベルトコンベアの高さの段差が最小で 3CM

ES-161【フラットタイプ】



段差
なし

シールする部分の高さと、ベルトコンベアの高さの段差が最小で 1CM なので、長さ 10CM 以下の小さな袋は ES-161 がお勧めです。



用途：ポリ系の袋のシール（袋を熱溶着し、密封します。）

注意：OPP素材の袋で、一部不向きなフィルムの材質がございます。

型 番	ES-160(標準タイプ) 、ES-161(フラットタイプ)
電 圧	100V 50HZ/60HZ共通 550W
外形寸法	横840×縦380×高さ280(mm)、ベルトコンベア部の幅は135mm
重 量	19kg
シール温度	0℃～300℃
ケース材質	ステンレスボディー
シール幅	10mm(シール模様は網目状)、(袋の口の遊び部分は0mm～12mmで調整可能)
注 釈	電源を入れてから、約2分で使用可能。

株式会社アスクワークス

TEL : 03-5610-3666
http://www.askworks.com/

販売代理店名

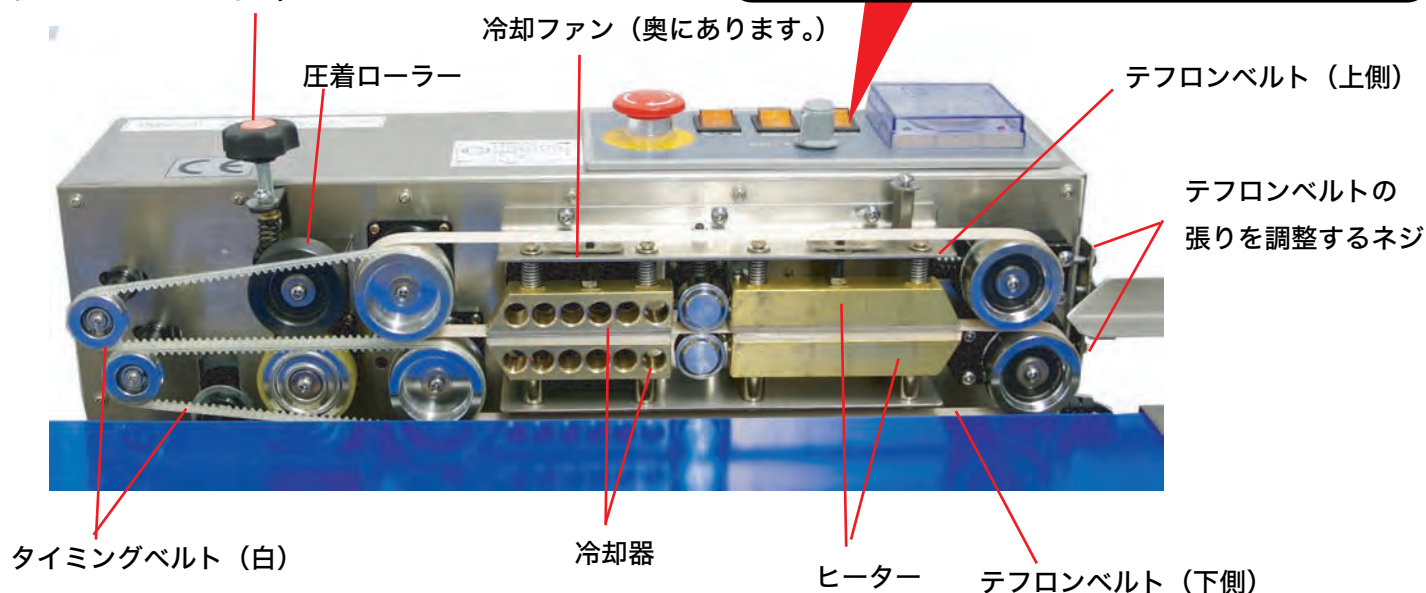
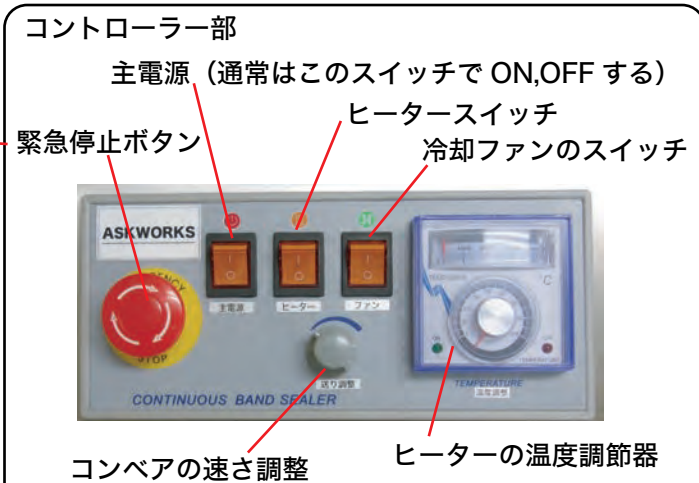
全体図



この緊急停止ボタンが沈んでいると
すべて動作しません。矢印の方向に回すと、
上に上がり、動くようになります。
(通常の ON,OFF には絶対使わない)

カバーを外した状態

圧着ローラーの調整ネジ (ねじ山が1CM 見えるぐらいにする。強くしすぎると、袋が破けてしまう。弱すぎるときれいにシールできない)



早速使ってみましょう。

①試しに温度を 120℃にセットして、主電源とヒータースイッチを ON にする。(左と真ん中の2つ)
(極薄の袋 (0.03) の場合、105℃から試してください。溶けすぎて、カスが中にたまるのを防ぐため)

■コンベアの速さを調整する送り調整は、1/3 回す位がちょうどいいです。

コントローラー部



緑のランプが光っている間は温度が上昇していく



赤いランプが光ったら、指定の温度に到達したサインです。

一般例：ナイロンの厚み
0.03 / 110℃
0.06 / 115℃
0.6 / 130℃
アルミレトルト / 150℃

②約 2 分後

温度が 120℃を示し、OFF のランプ (赤) が光ったら、120℃に到達したことを意味します。袋を通してみてください。この時、袋が溶けすぎて、しわしわになっていたら温度を下げる。くっついていないときは温度を上げる必要があるのですが、少しずつ (+10 度ぐらいずつ) 上げて、きれいにシールできる温度を探してください。



袋を両手で持ち、ガイドに沿って入れる。
コンベアに乗ったら、手を離しても大丈夫です。



ガイドの位置を調整することでシールの位置を調整できます。



手で引っ張ってみて、しっかりくっついていないか確かめてください。

■シールをきれいに仕上げるには、ちょうど良い、温度と、圧着ローラーの強さと、コンベアの速さ、で決まります。

注意点、その他

作業が終わったら、すぐに電源を切ってはいけません。 (重要)

①まず、ファンの電源を入れる。



②温度を0にして、温度計が 60℃以下になるまで、そのままコンベアを動かす。
(約 15 分)

理由：すぐに主電源を切ると、ヒーターがテフロンベルトの一部のみに熱を加え続けるため、テフロンベルトがすぐに劣化し、切れてしまいます。

③温度が十分に下がったら、主電源を切ってください。

緊急停止ボタンは普段は使いません。

本当に緊急時以外は触らないでください。

(押すと瞬時にすべての動作が止まる矢印方向にひねると、再びボタンが上がり、機械を動かすことができます。)

もしくは、ヒーターのスイッチを切り、ファンのスイッチを入れ、タイマーで 15 分計ってから主電源を切る、でもかまいません。

壊さないための注意点

- ・長い時間稼働させたら、たまに機械本体を触り、異常に熱を帯びていたら、1～2 時間休ませること。
- ・ぬれた手や、粉が付いた手で、スイッチ類を触らないこと。
- ・なるべく風通しの良いところに設置してください。冷蔵室内など、湿気が多いと故障の原因になります。
- ・たこ足配線は、電圧低下につながり、故障の原因になります。おやめください。

・粉ものや液体がスイッチの隙間に入ると故障の原因になります。



・粉や液体ものを扱う場合は、手ぬぐいなどをかぶせること。

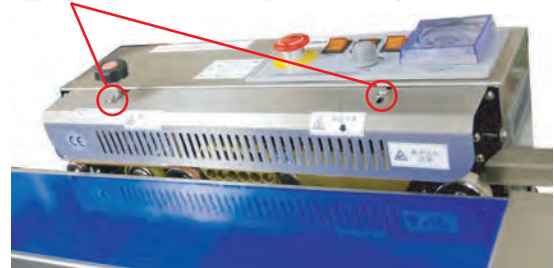


メンテナンス

テフロンベルトの交換、掃除

テフロンベルトにナイロンのカスがくっついたり、古くなり磨耗するときれいにシールできなくなります。テフロンベルトに付いたカスをとったり、ぼろぼろになったら、テフロンベルトの交換が必要です。

まずは、2 つのネジを 2 回転ほど緩めて、カバーを外す。
(ネジを全部外すのではなく、緩めるだけ)



タイミングベルトとテフロンベルトの交換

まず、作業しやすいよう、準備します。



袋のガイドを2つのネジを外して、外す。

ベルトの位置をできるだけ手前に、そして、ベルトの高さをできるだけ下げると作業がしやすいです。(下げ方は、ベルトコンベアの高さ調整を参照ください。)

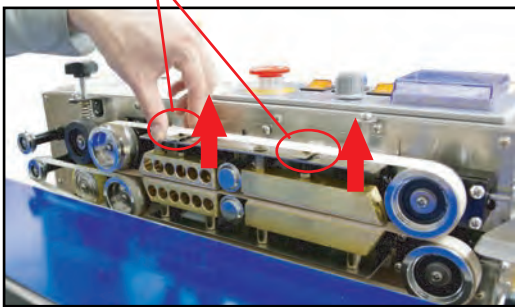
①2本のタイミングベルトをよじりながら外します。



どうしても硬くて外しにくいときは、ひも状のもの(輪ゴムだったら2、3本)入れて、手前に引っ張りながら、電源を入れ、スピードを最低で動かします。すると、よじれて、ベルトが外れます。(指を挟まないように注意！)



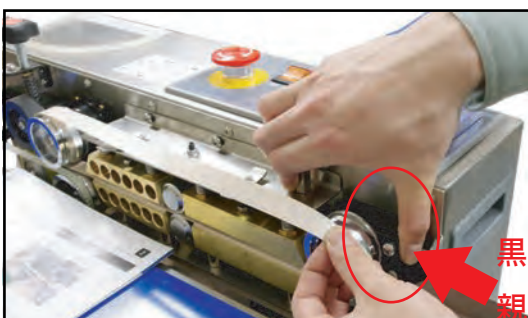
②2つのつまみを90度回し(右回り)、部品を浮かせます。基本的には、90度回せば浮きますが、作業しにくいときは何回か回転させると、より浮きます。



③写真の位置のネジを締めると(右回り)真ん中のローラーも浮いていきます。

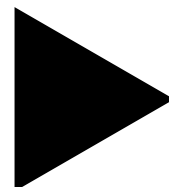


④ローラーの土台を左に強く押すと、スライドします。そしてテフロンベルトを外します。(上下とも)同じ要領で、ベルトをかけます。(左手でベルトを固定し、部品の間を通して、ローラーの土台を左に押しながらかける。)



黒い土台部分を親指で押す。

次ページへ



タイミングベルトとテフロンベルトの交換の続き

⑤ 2つのテフロンベルトをかけたら、電源を入れ空回しをして、上下ベルトの位置にずれが出ないかチェックします。

○ 良い例

上下のベルトがそろっている



× 悪い例

上下のベルトがずれている。

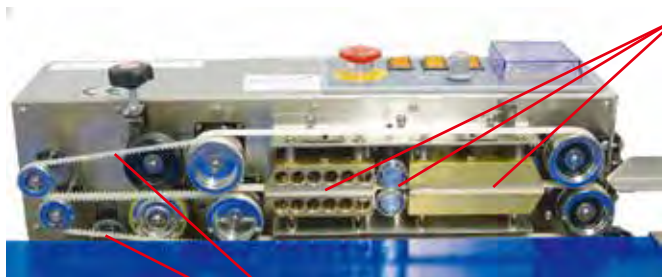


⑥ もし、上下のベルトがずれていたら、各土台のネジで、ベルトの位置の調整が可能です。



一度にたくさん回さず、微調整してください。

⑦ ②で回したレバーとネジを元に戻し、浮かせたヒーター、真ん中のローラー、冷却器が完全に下に下がっていることを確認してください。



3つの部品がぴったり下がっているか、今一度ご確認ください。
(超厚手の袋(アルミのガゼットタイプなど)を使用する場合、ヒーター、冷却器を若干(0.5ミリ)ぐらい上げたほうが良い場合もあります。)

外したときと同じ要領で、タイミングベルトもかけます。
下側を先にはめると、やりやすいです。

トラブルに関して (あくまで参考です。詳しくはお問い合わせください。)

■ 電源が入らない→

緊急停止ボタンが下がっていませんか？ または、コード(本体側)を一度抜き、ぐぐっと奥まで差ししてください。
電源スイッチ(黄色)が壊れた可能性あり。緊急停止ボタンが壊れた可能性あり。

■ きれいにシールができない→

温度、スピード、圧着ローラーの調整が不十分な可能性あり。テフロンシートにごみが付着している可能性あり。

■ 温度が上昇し続ける(みどりのランプが付きっぱなし)→

温度調整器が壊れた可能性あり。

■ 温度が上がらない(ヒーターの電源ランプ(真ん中)が点灯しない。→ヒーターのスイッチが壊れた可能性あり。

(ヒーターの電源ランプ(真ん中)は点灯する。温度調節器またはヒーターが壊れた可能性あり。)

■ 電源ランプは付くが、モーターが動かない→

モーターコントローラーが壊れた可能性あり。モーターブラシが磨耗し、交換が必要な可能性あり。

ベルトコンベアの位置調整



コンベアの下にねじがあります。(両脇に2つ)
このネジを緩めると、コンベアが手前にスライド
できます。

注意点：引っ張りすぎると、つないでいる棒（シャフト）が外れ
てしまうので、13センチ以上は出さないでください。



もし、つないでいる棒がはずれて
しまったら、裏ふたを開け、棒の
キー（溝）を合わせて挿入してく
ださい。



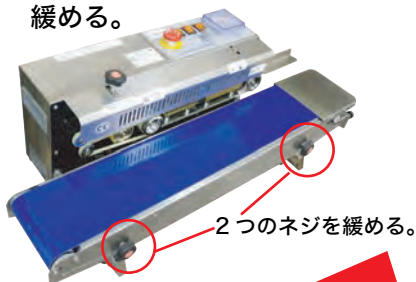
穴のキー溝
を合わせる。

ベルトコンベアの高さ調整

①まず、付属の工具を取り出す。



②コンベアの前側下の2つのネジを
緩める。



2つのネジを緩める。

③機械をそーっと、横に倒します。
(コンセントは抜いてください。)

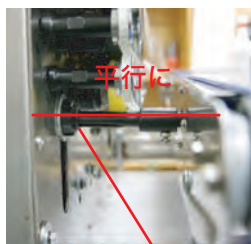


黒い金具部分
の溝に工具を
合わせ、回す。

④高さを調整する際、コンベアの棒が、
タイミングベルトに当たらないよう
ご注意ください。



ベルトを上げすぎて、
ここが棒にあたらないように
(フラットタイプの ES-161 は
若干構造が異なります。)



平行に

⑤調整したら、③で緩めた金具を再び
締めます。固定する際、必ず棒が平行
になるようにしてください。斜めにな
っていると、周りの金具にあたり、キ
ーコ、キーコと異音が発生します。

棒の根元と、周りの金具が
こすらないように。

補足：写真のような、ウォーターポンプブライヤー
があると、機械を横倒ししなくても、高さ調整が
可能です。

